

# 農業者年金加入事例紹介

## 古河市 小泉建一さん

古河市でナス、キャベツ、レタスなど約10種類の野菜を生産する小泉建一（65歳）さん。農業者年金には、父親、息子と3世代に渡って加入してきた。

この度、息子の晃一さん（29歳）に経営移譲し、農業者年金の受給が始まる。

「国民年金だけでは生活費の一部。農業者年金の受給とあわせ、ゆとりが持てるようになった」と話す小泉さん。若い時は年金のことは考えず、農業者年金に加入した当時も、保険料は父親が積んでくれていた。父親から経営移譲と同時に、保険料の支払いも自分で行うようになったが、受給する今になって「農業者年金に加入してくれた両親には本当に感謝してる」と話す。

先頃、息子の晃一さんも、農業委員会の中田会長の勧めで農業者年金に加入した。晃一さんは「50歳、60歳となったとき、今のまま農業を続けられるか分からない。老後のことは、若いうちから考えなければと思う。しかし保険料を積んでいくのは大変」と話す。

小泉さんは「農業を継いでくれたのだから、若いうちは、保険料は私が払いますよ」と言う。また、新制度への加入を考えたのは、老後の保障とともに、節税対策になるのも大きな魅力。制度が積み立て方式に改正されたことも、安心して加入できたと話す。

世代を渡って農業経営の継承とともに農業者年金の加入も引き継がれている。



左から 晃一さん、建一さん、妻の春江さん